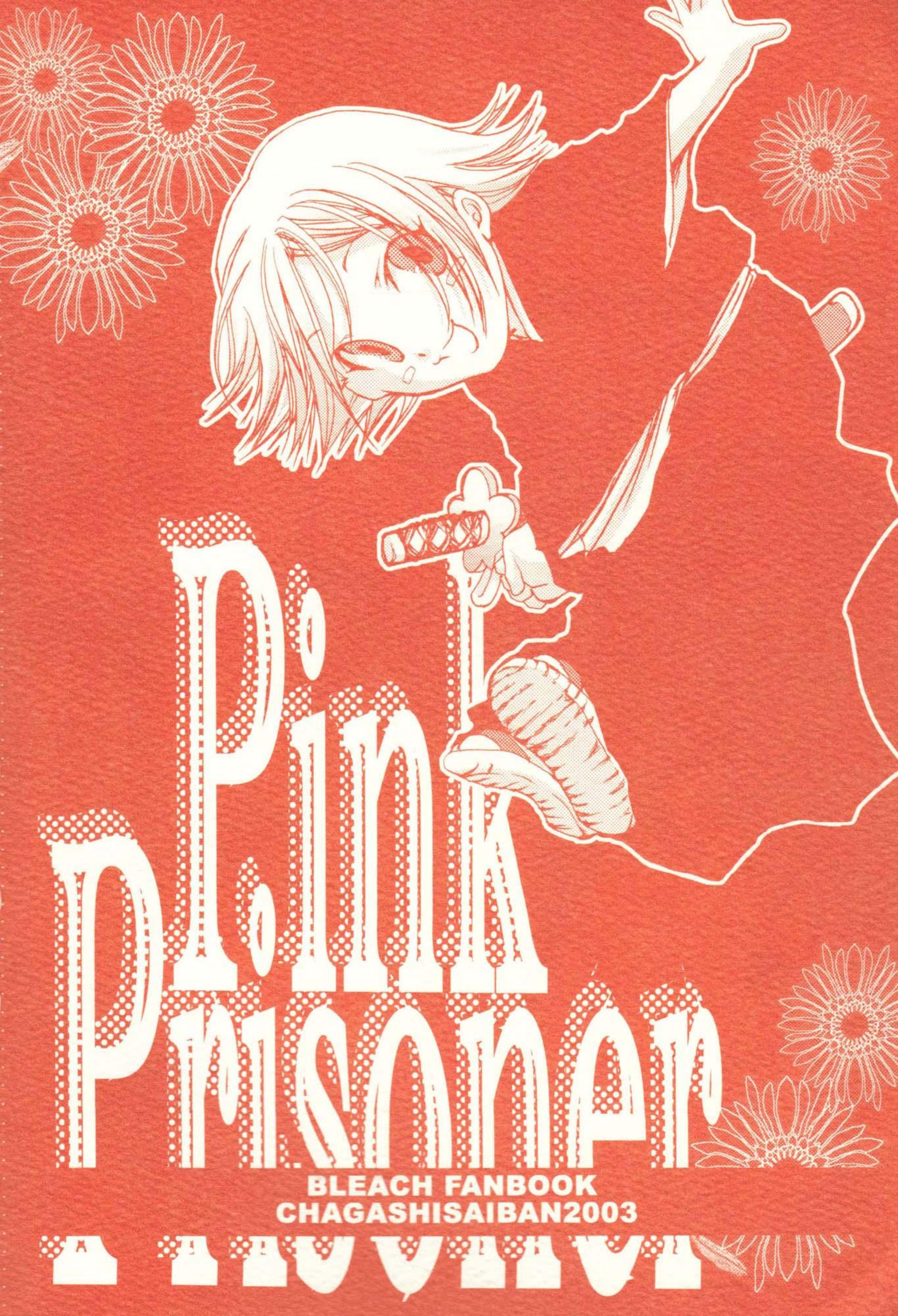


Pink Prisoner

BLEACH FANBOOK For Adlut





Princess

BLEACH FANBOOK
CHAGASHISAIBAN2003

ILLUSTRATION BY CHAGASHISAIBAN



●まえがき●

はじめましてでもこんにちは。隊長副隊長の名前と所属が判明していくたびにあふれる萌えが抑えきれず、はじめての BLEACH 本です。ロマンティックが止まりません…どうしよう。でも引っかかるところが。出てくるキャラの何割か、私には性別の判断が微妙なのです。雛森を男だと本気で思ってたくらいなので…。よく原作見ろよ…「わたし」ならともかく「あたし」って言ってる男そういねえよ…。今一番判別が微妙なのは四番隊長。ときメモ2の白雪さんみたいな髪してますが、男か女かわかりません。あと九番隊長もちょっと微妙。結構ガタイいいけど実は女性だったら萌えです。マユリ様も本当のところはわかりませんが、女性だとネムさんの素敵なお主人様のドリームが崩れるので男性でいてください…。乱菊姐さんや剣ちゃんみたいに、惜しげもなく肌を露出してくれれば、アホな私にもわかるのになあ…。でも、ここまで露出度少ないと、腕チラにも萌えられます。やっぱりどうしようもなくロマンティックが止まらねえ！描きづらくて苦労した剣ちゃん（の髪型）も、最後の最後でどうにかできるようになったことだし、また描きたいなあ。なんか後記みたいになってますが、次のページからマンガ始まってます。しばしのお付き合いよろしくお願いします…。



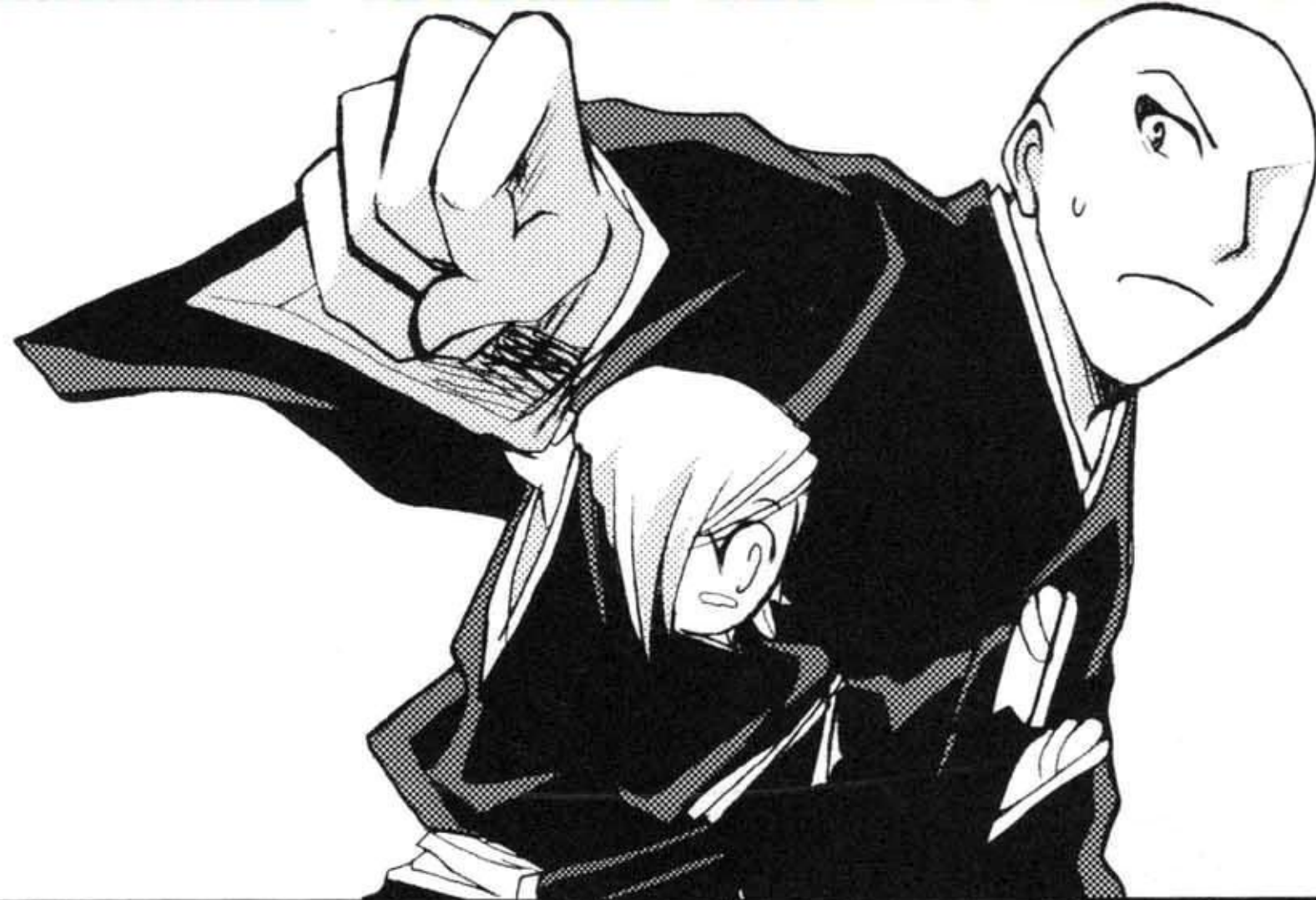
**The special edition of autumn,
a total of 38 pages.
Pink Prisoner starts.**

BAL-

Hooray!!
Hop to
it!!



STOP CALLING
ME BALDY,
YACHIRU!!!

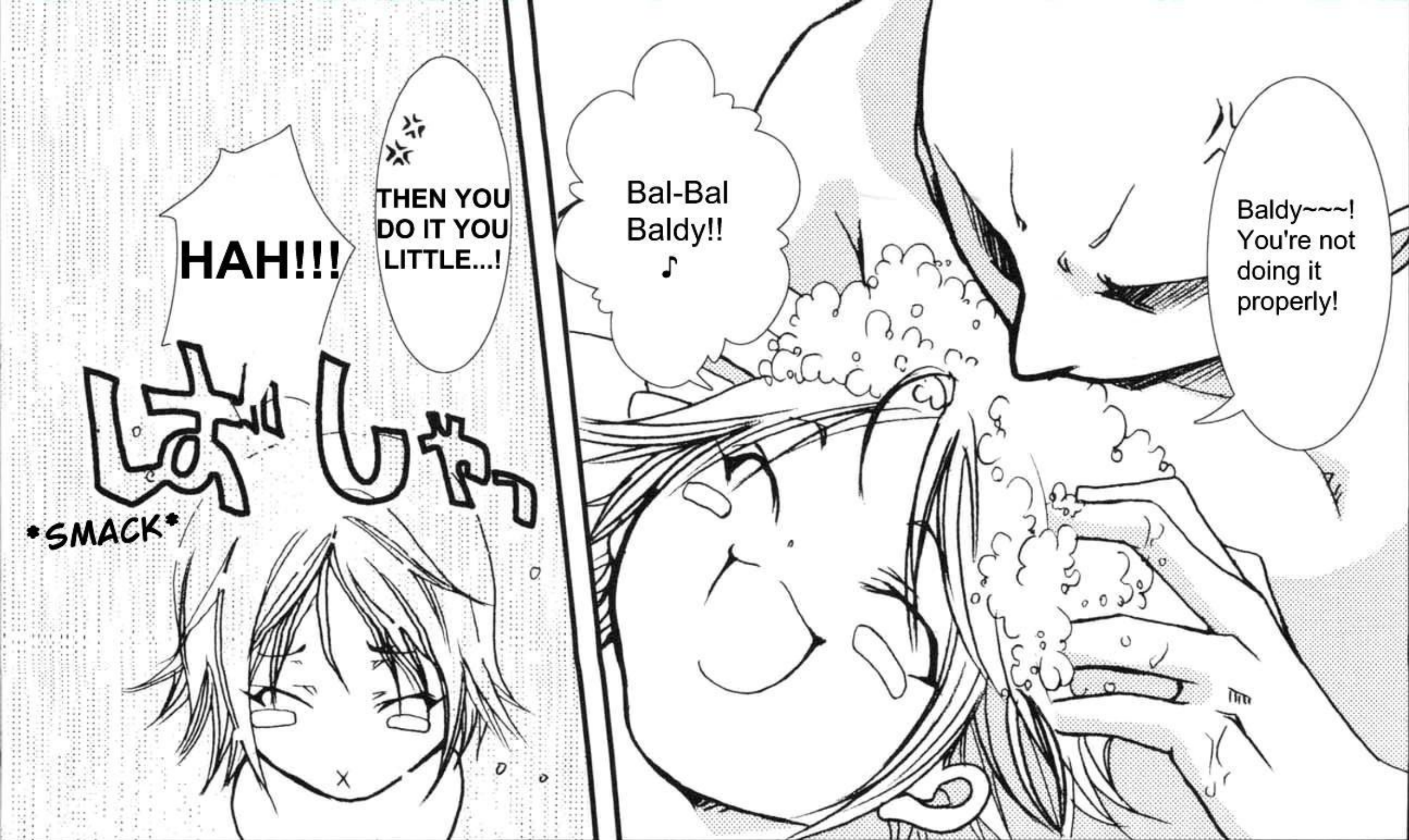


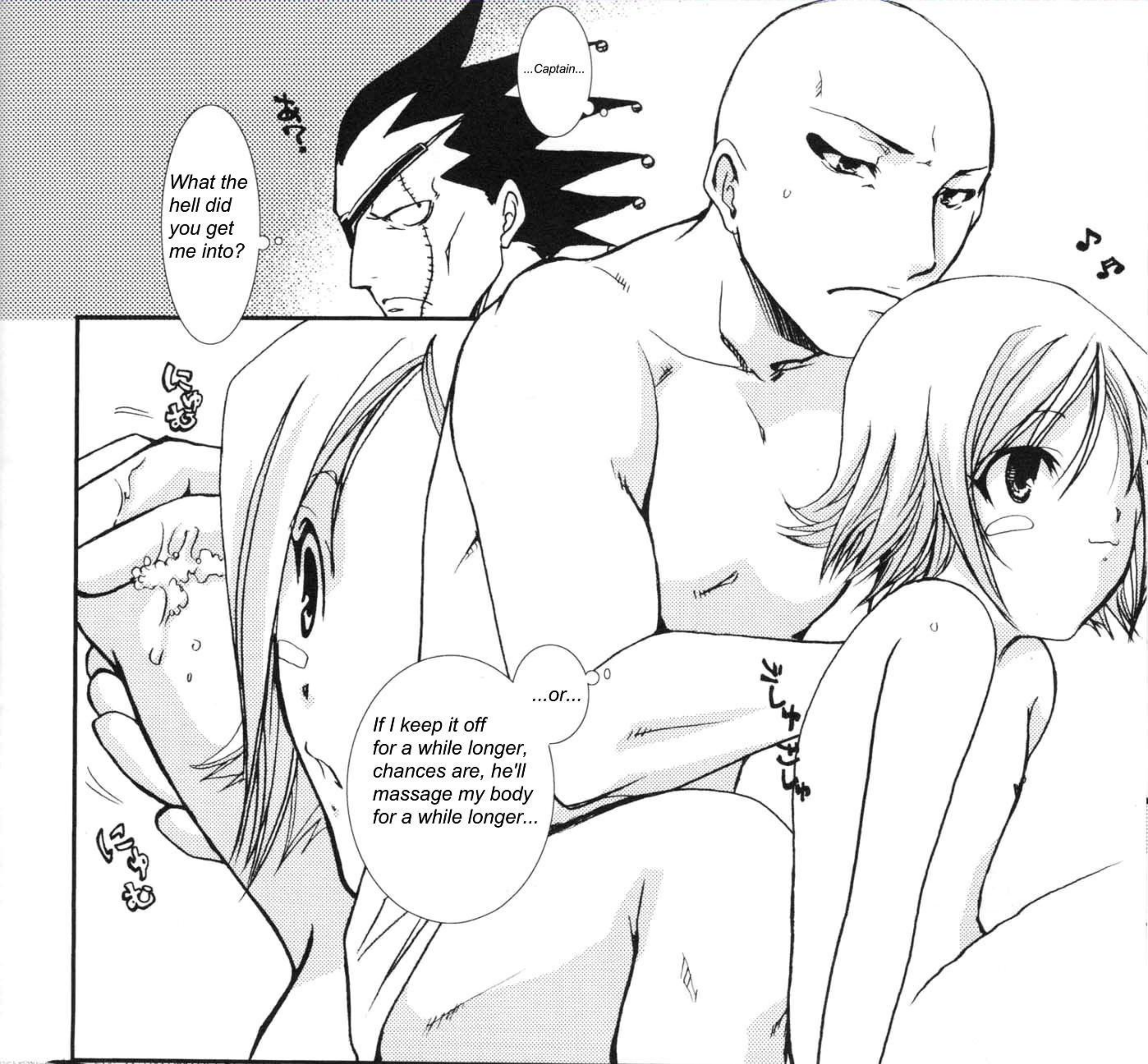
You promised Ken-chan yesterday that you'd look after me and take me to the baths.



Yeah, yeah...

Scratch the back of my head some more!





I guess...
that day
way back...
did...



Baldy!

How long
are you
going to
wash me?
I'm getting
tired...



Ikkaku-
san...



Now then,
let's get
you...

Sorry,
my bad.



...nnnn...

いっかく...

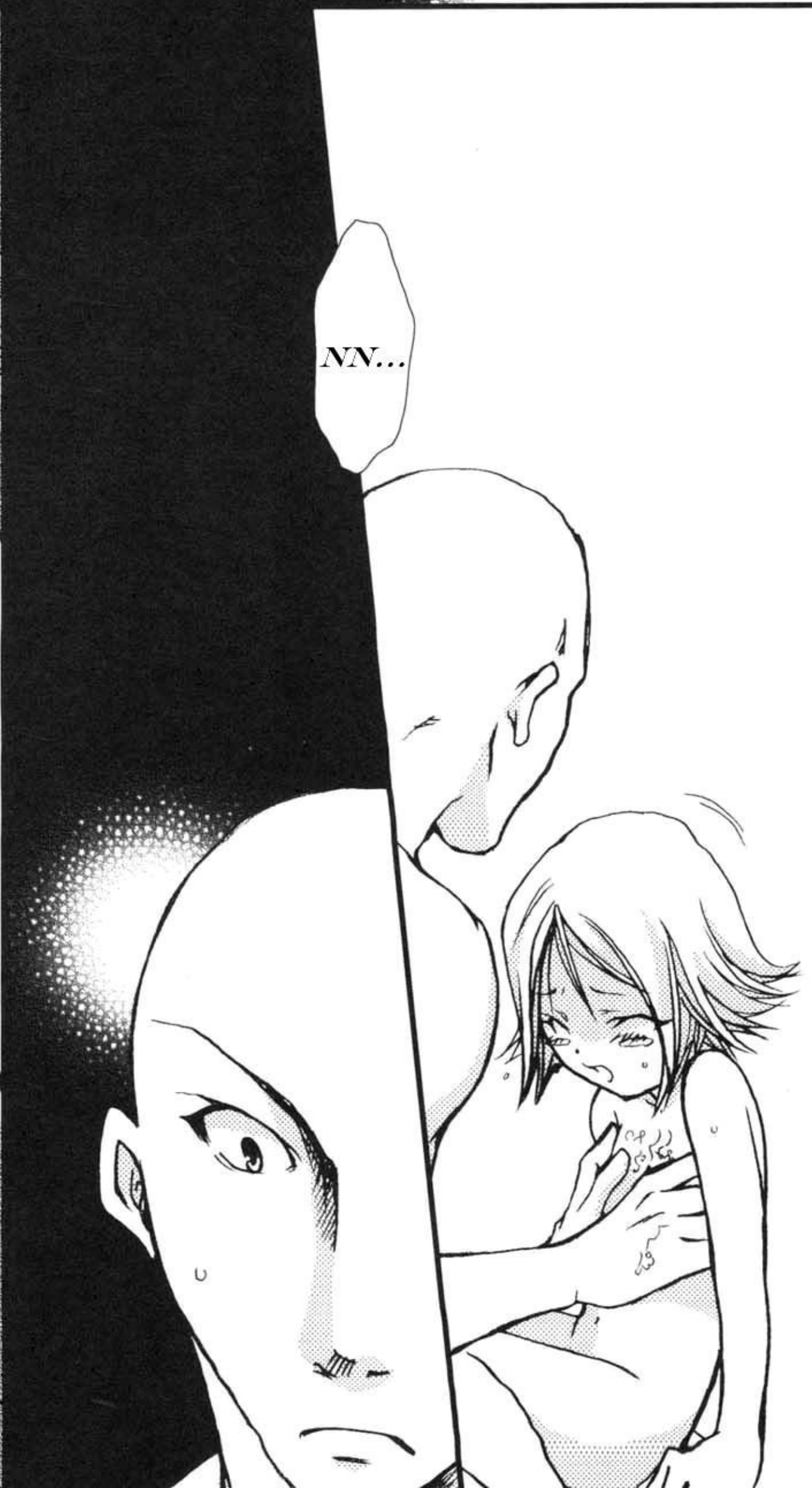
Scrub that spot some more.



Yeah, yeah.



NN...

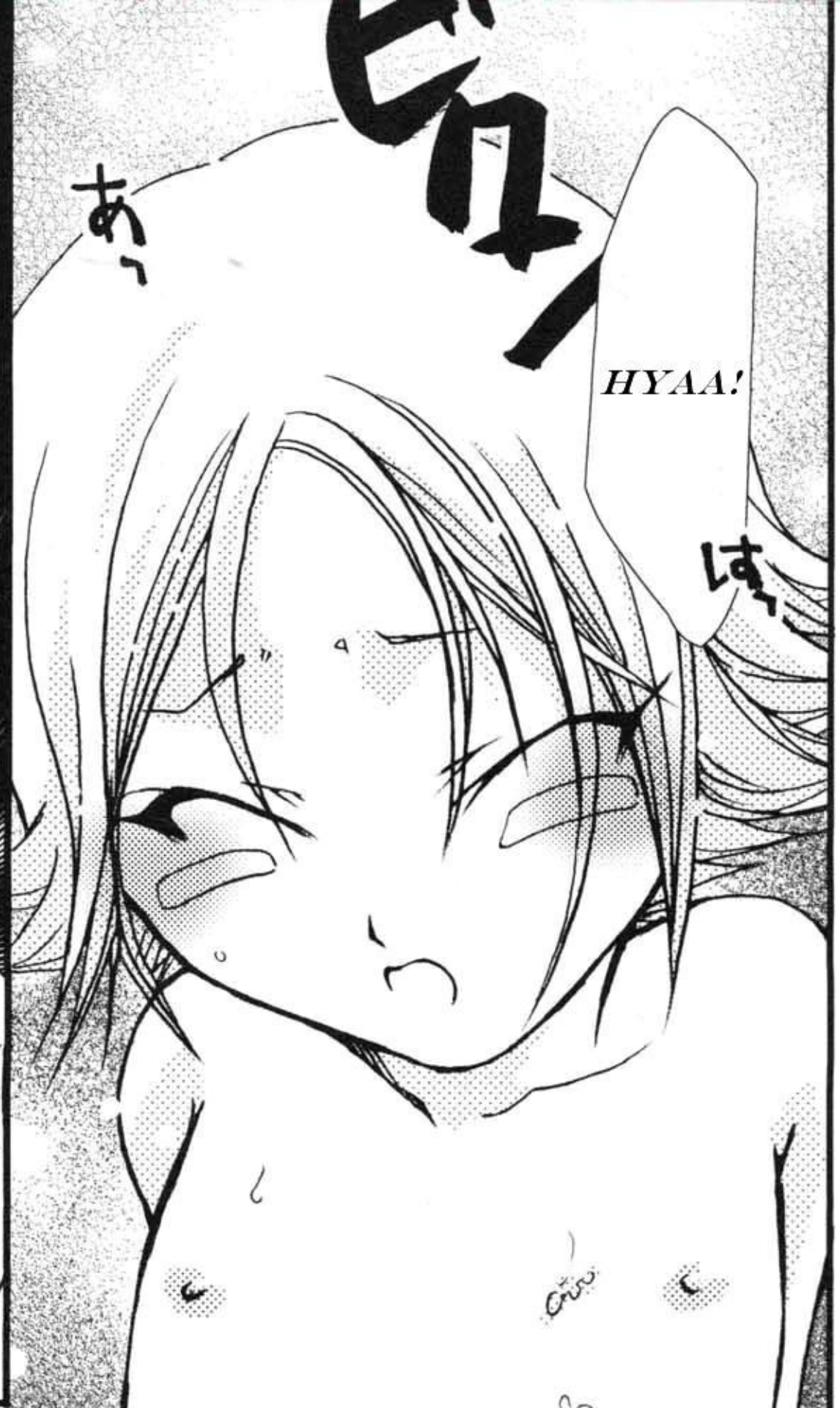




ま。

Umm...

Couldn't you go more gentler, Baldy?

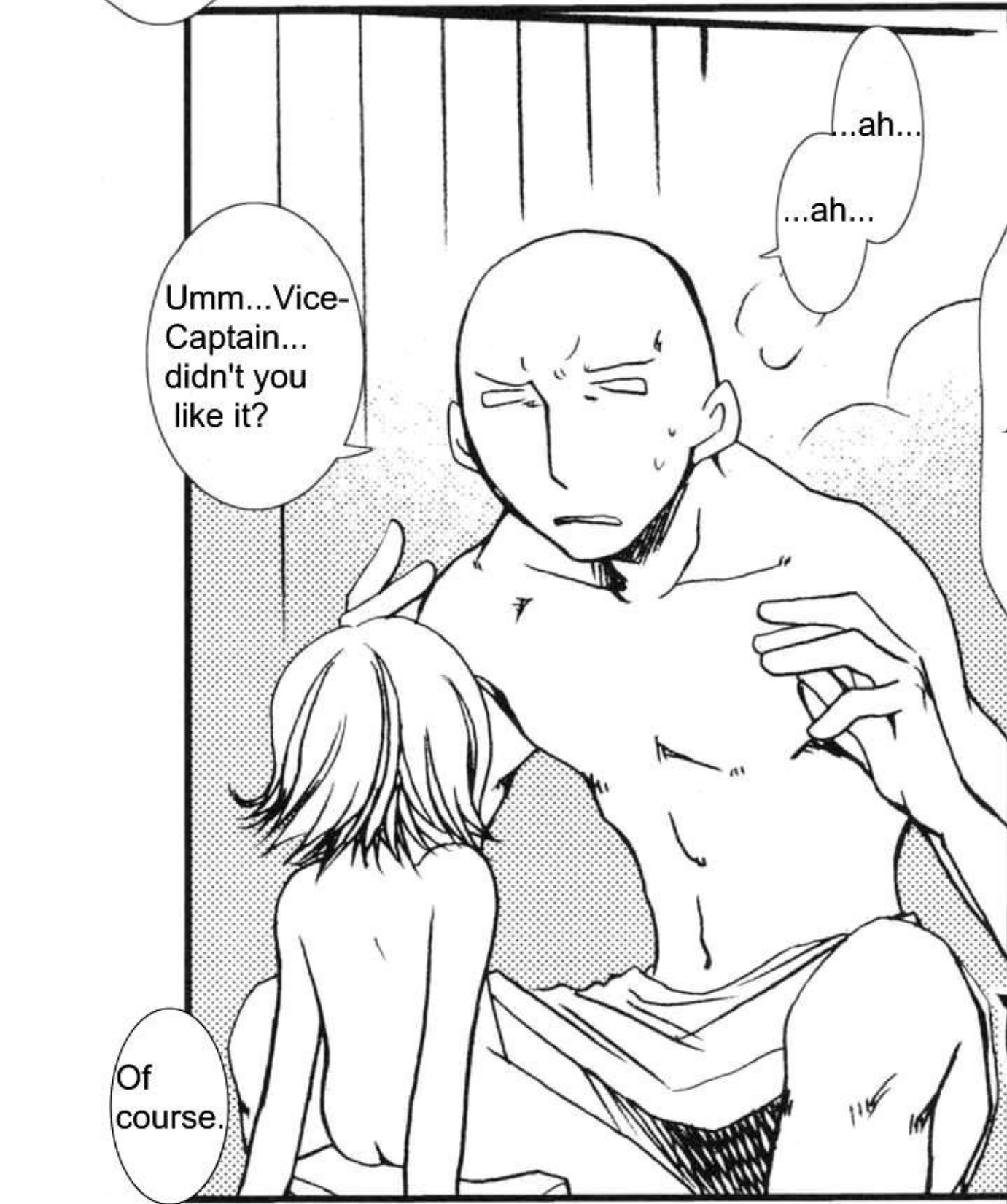


HYAA!

は

は

FUAAH!



...ah...

...ah...

Umm... Vice-Captain... didn't you like it?

Of course.

バ

WHAT THE HELL,
CAPTAIN!!

ずーん

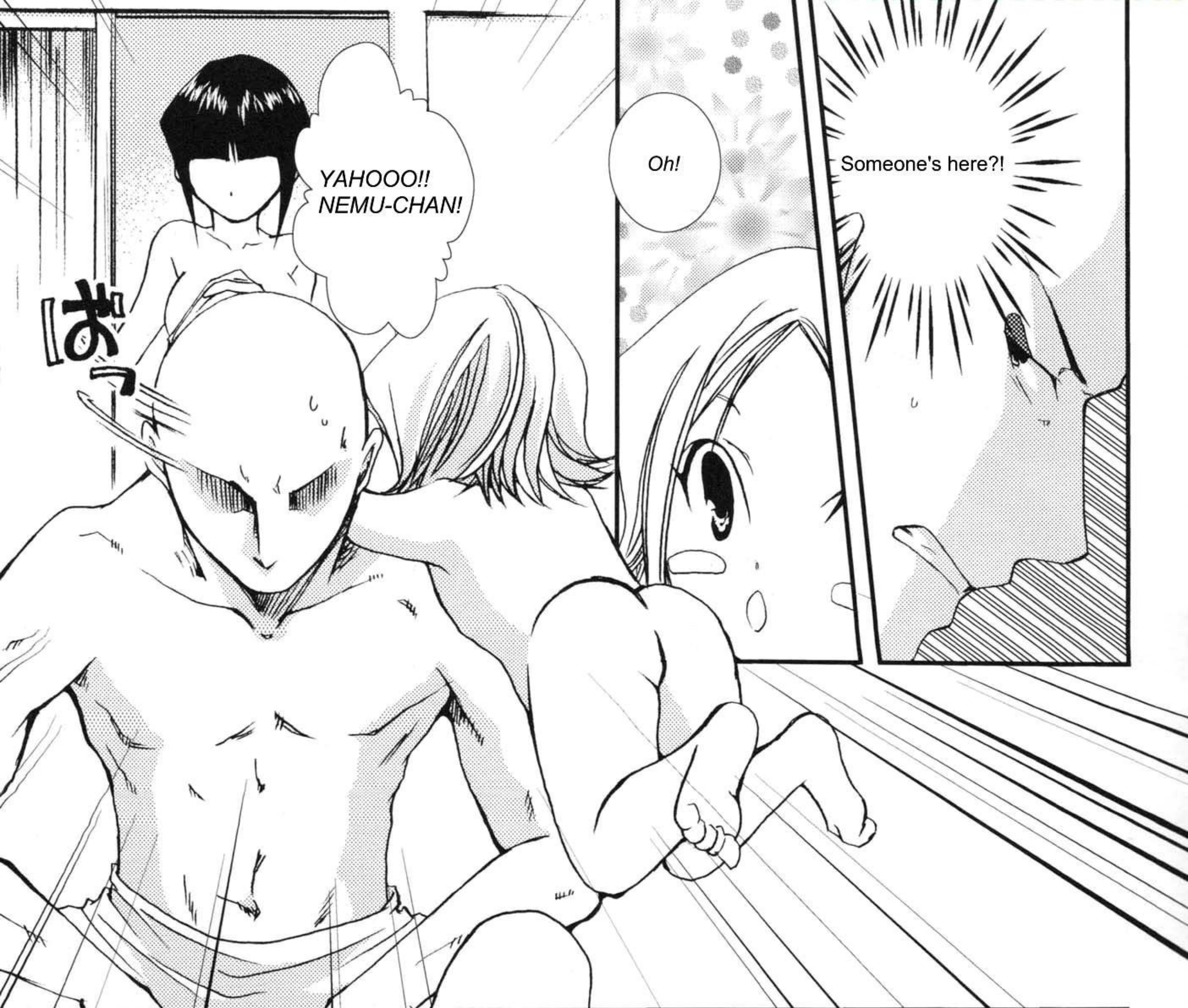
Baldy
looks
silly...

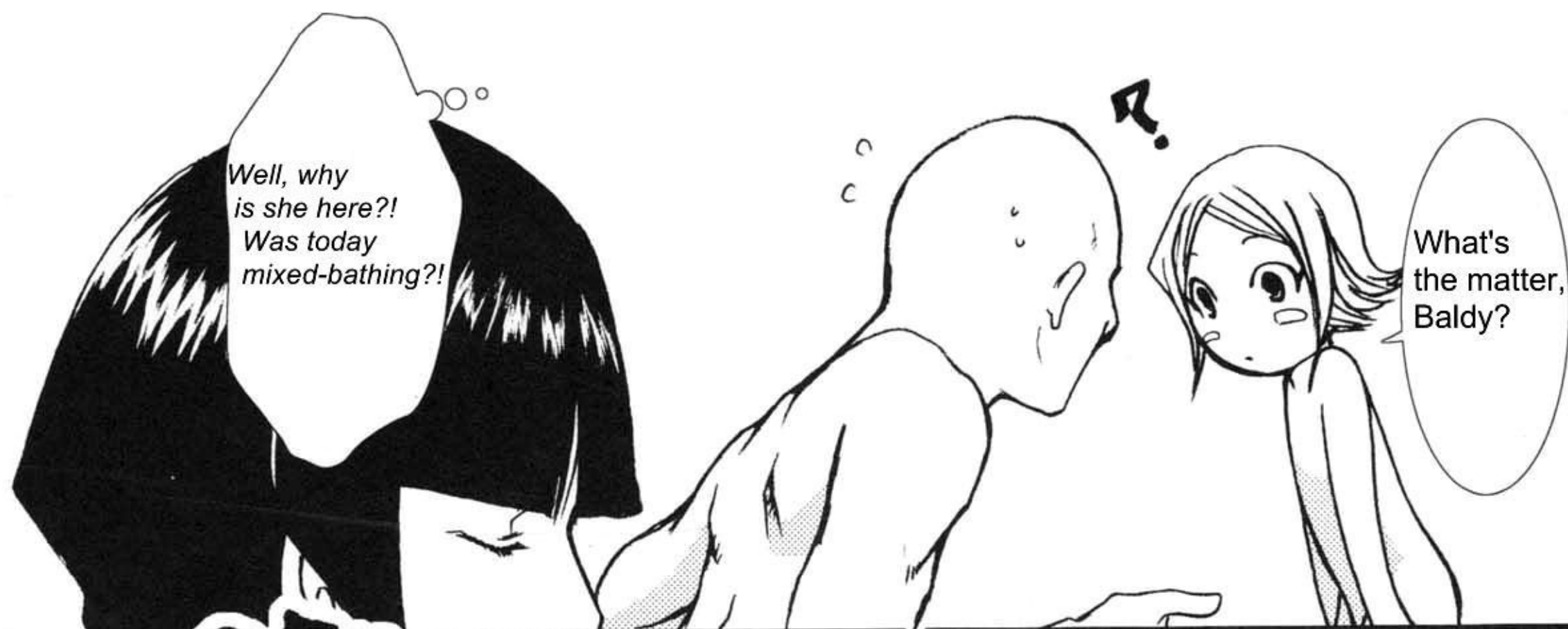
Ken-chan loves
to massage and
chew on my
freshly washed
tits...

ガクン

!!

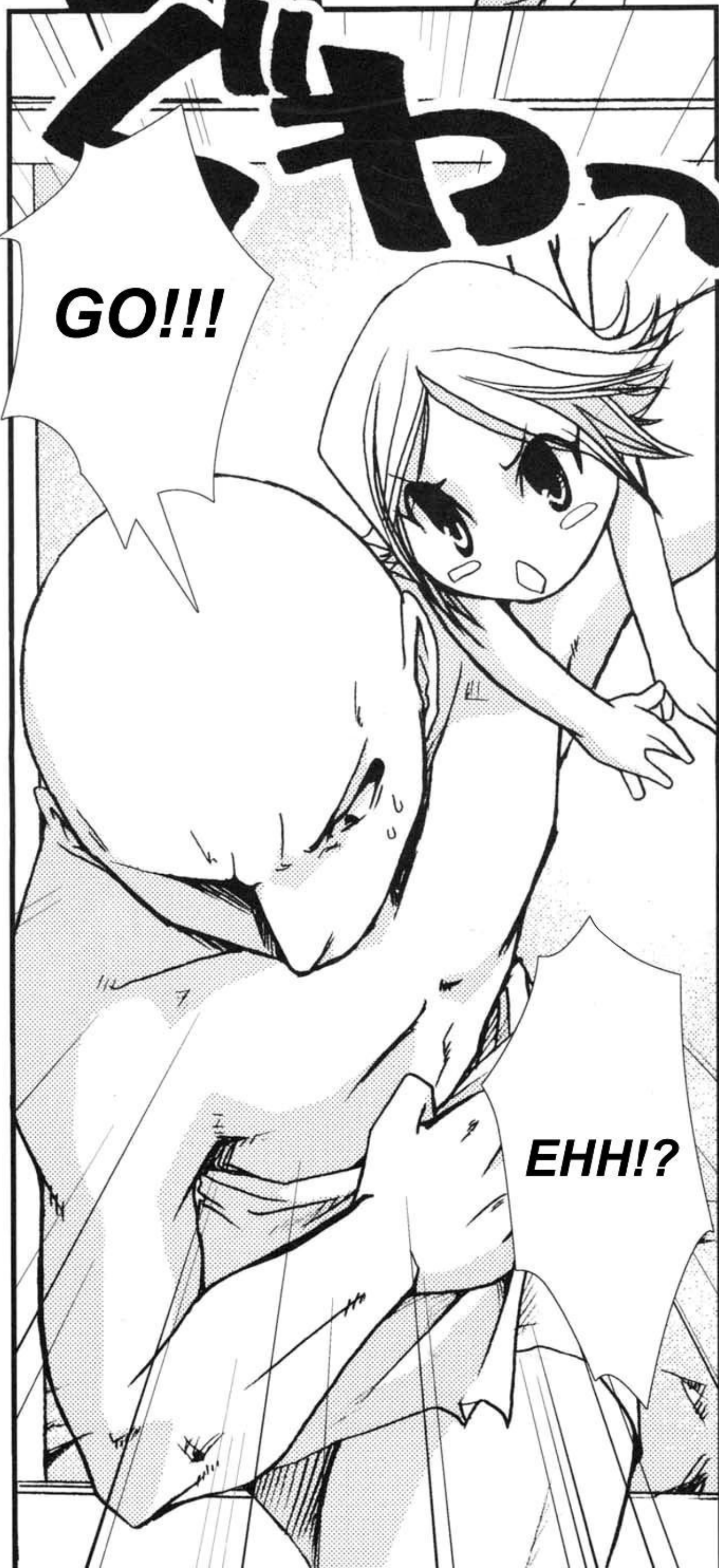
...And have some
of my juices from
my freshly washed
pussy...





Well, why
is she here?!
Was today
mixed-bathing?!

What's
the matter,
Baldy?



GO!!!

EHH!?



...we
can go
to the
private
baths.

It is
mixed-
bathing.
Well...

!!!

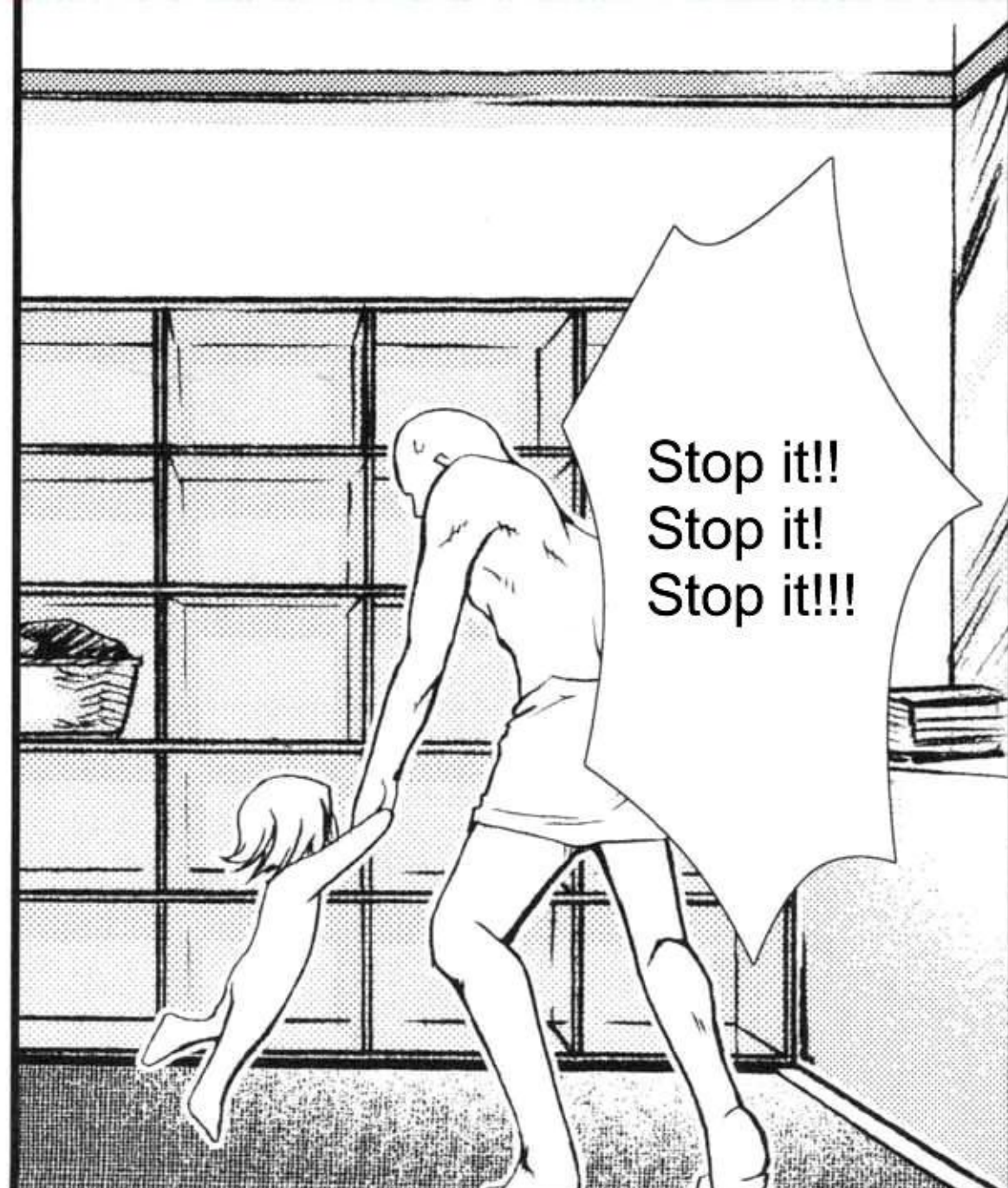
Shit...She's gonna
take advantage of
me in there, I
know it...

You can
wash me
more,
Baldy.



I don't...
wanna
leave this
spot!

You go
to the
private spot
alone!



Stop it!!
Stop it!
Stop it!!!

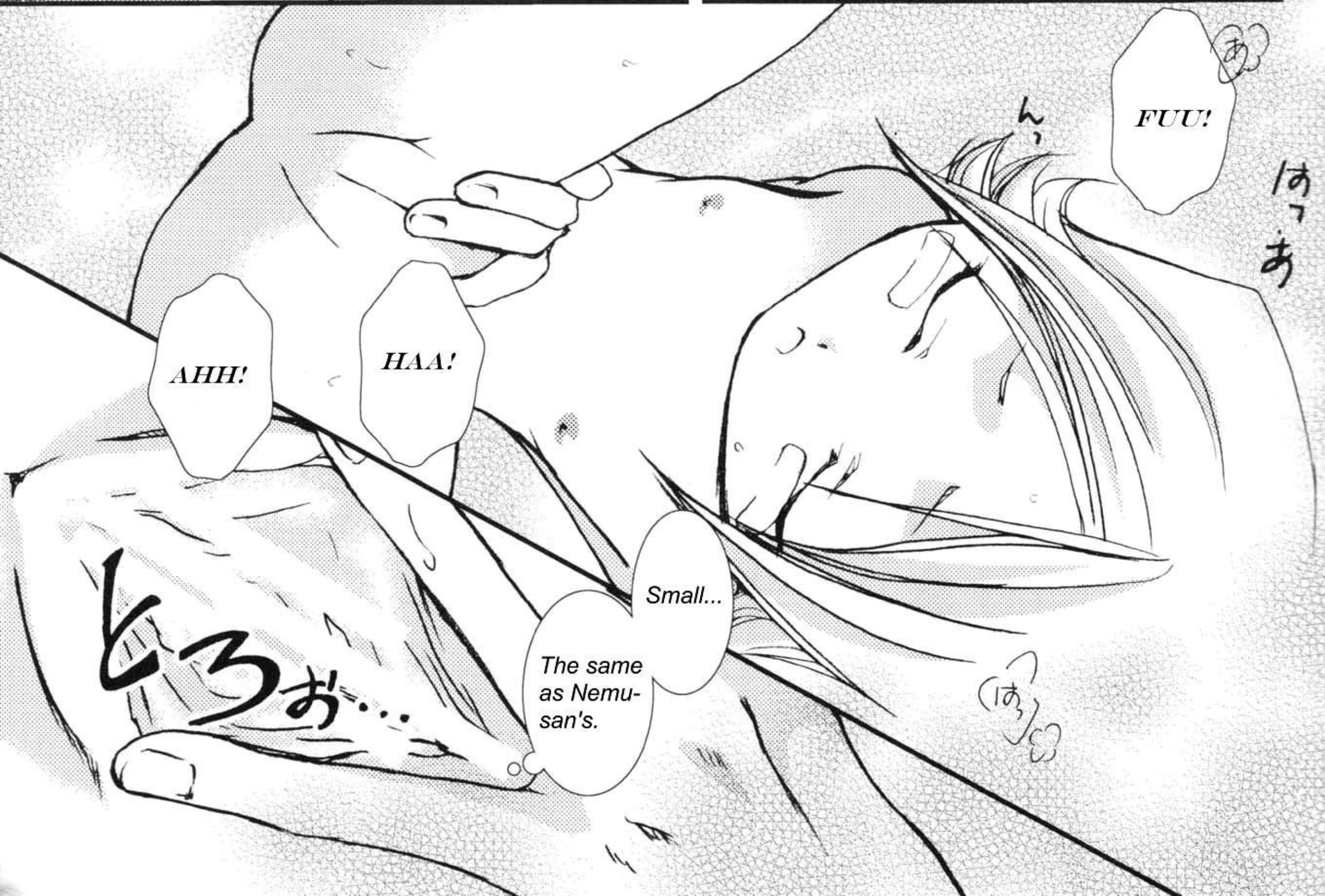
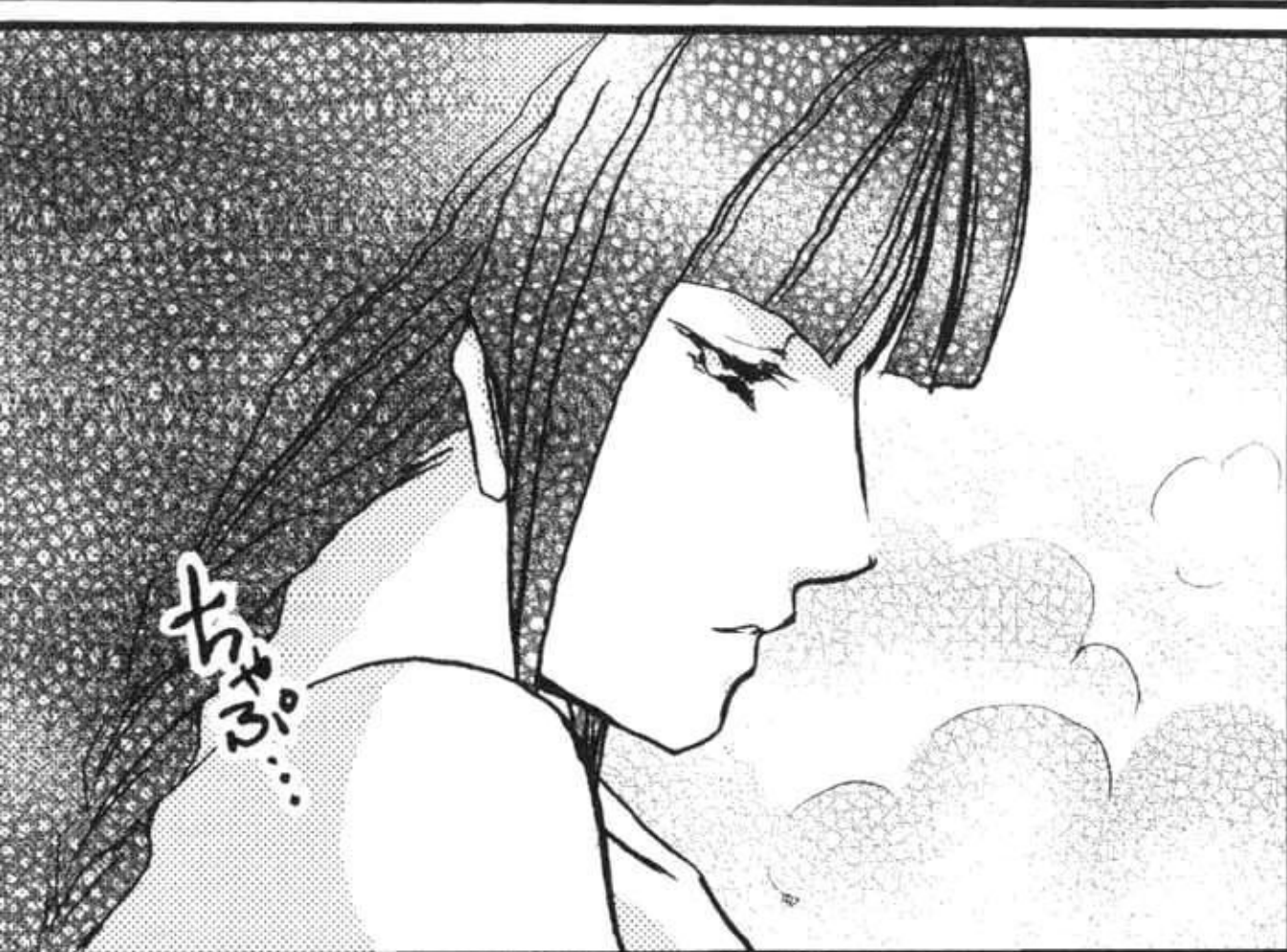
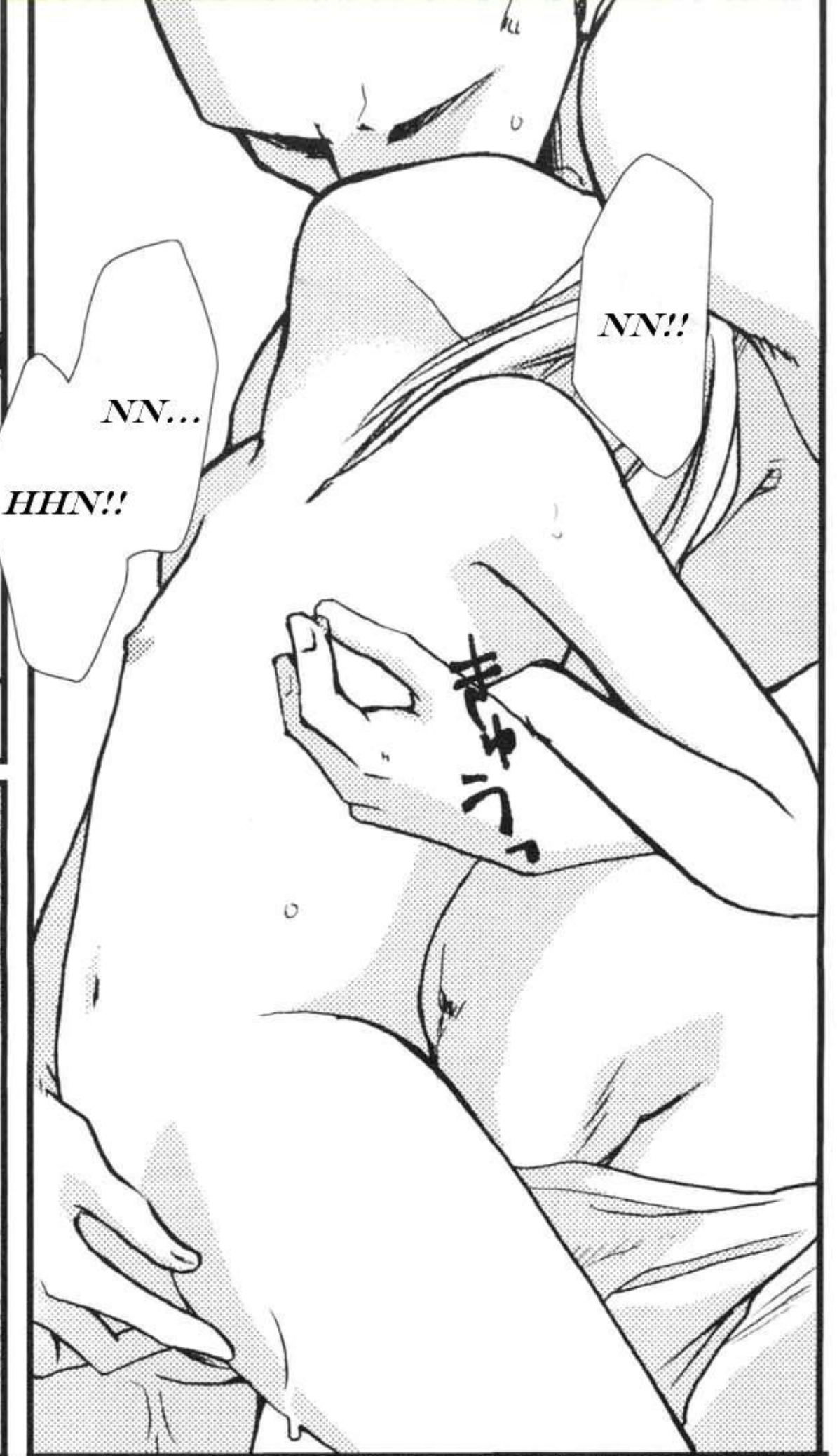


Nemu-san...



Ahh!

清掃中



NN...

HHN!!

NN!!

ちゅ...
3...

FUU!

AHH!

HAA!

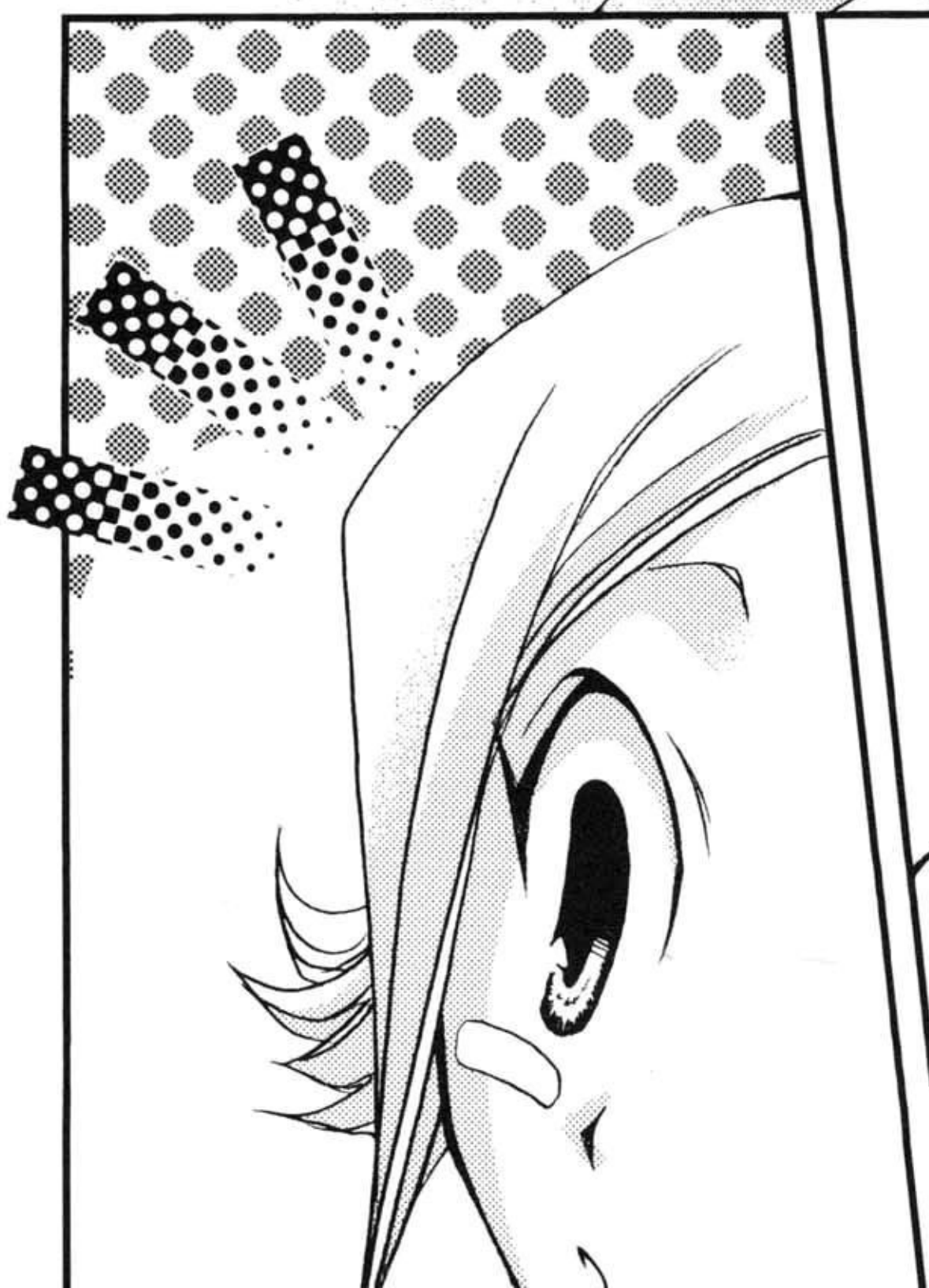
Small...

The same
as Nemu-
san's.

とろお...

あーあ

(あ)



ばっ

EHH?!!!

Now show
me yours,
Baldy!

Show me!
Stop
moving!
Show
me!

!!

Baldy...

That
hit the
spot...



Shit!

Oh no!!
Nemu-san's
going to see
my dick!!



She seen it!
She seen my
big dick in
Vice-Captain's
face!!!

What?!
What was that
reaction all about?!

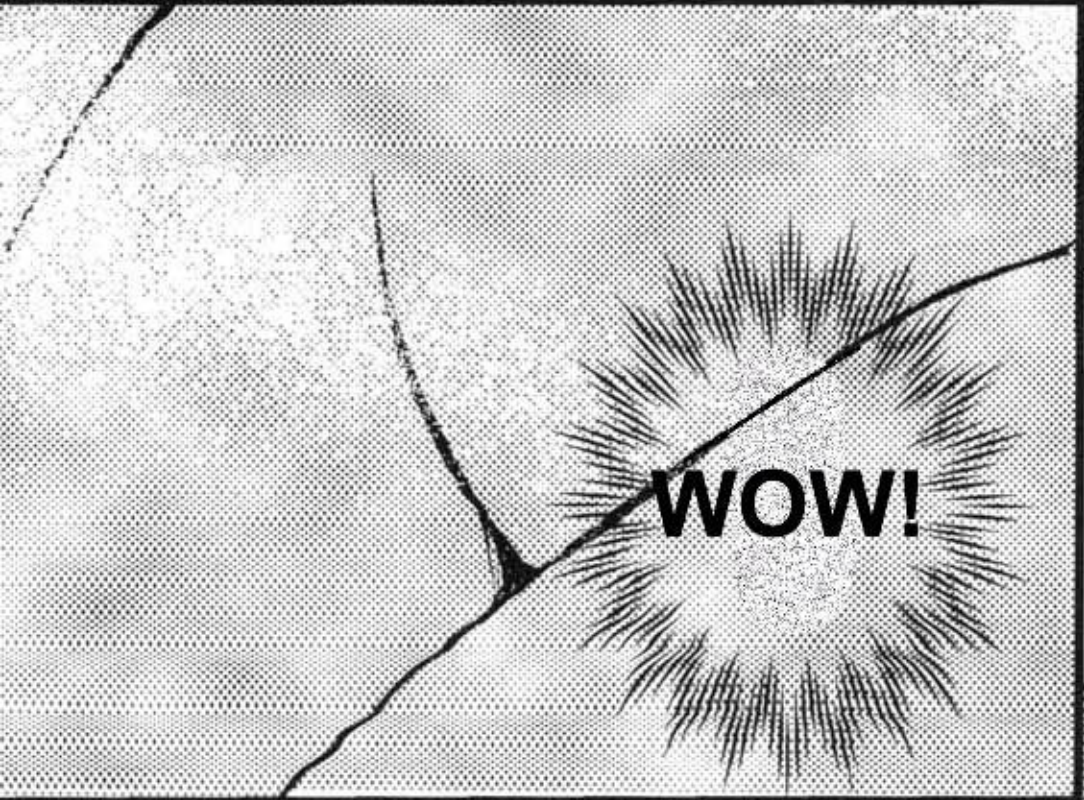
Huh?

Nemu-chan!
Wanna play
with me?

Ow!
Ow!
Ow!



W-



-ow!



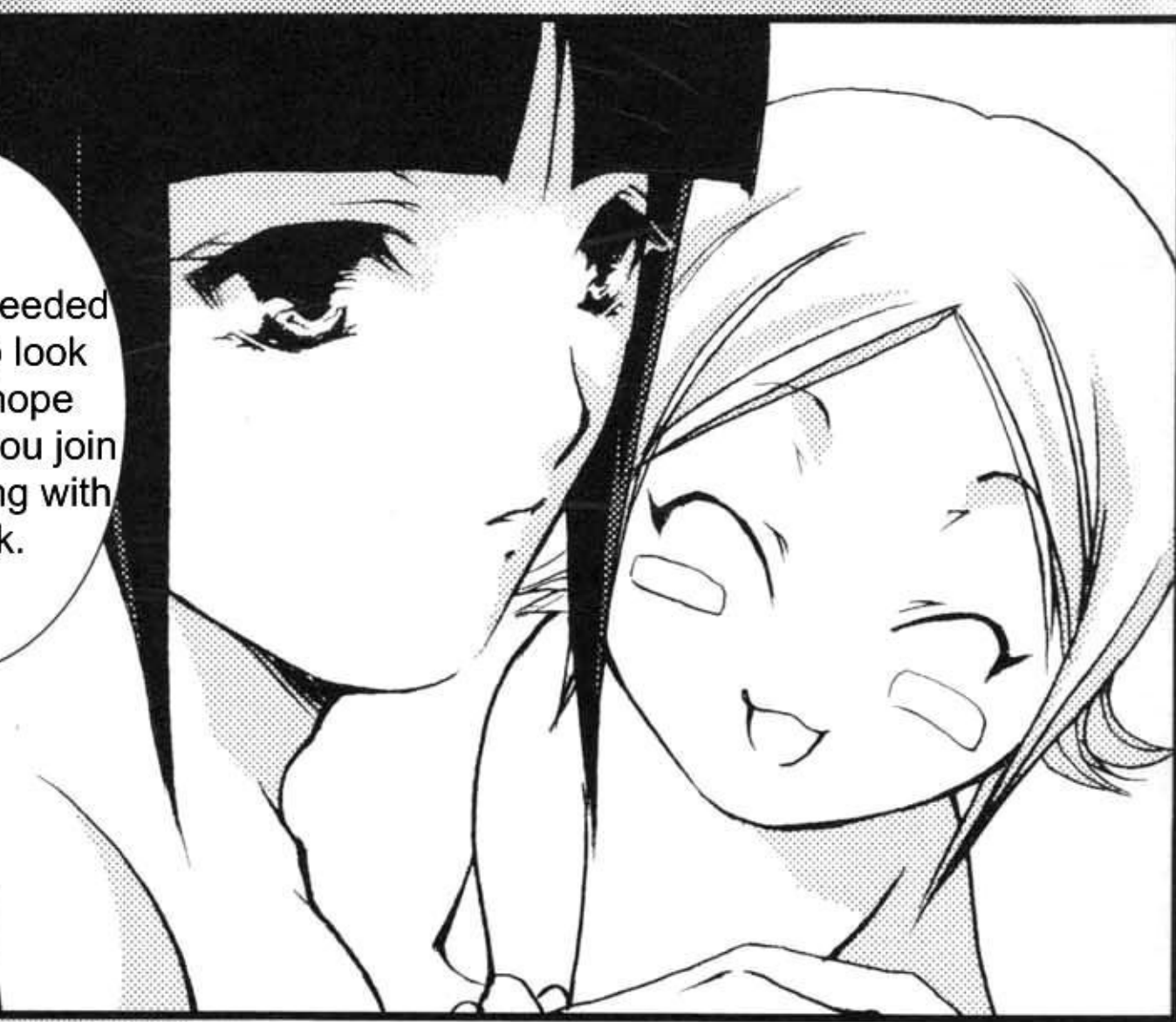
Mind if 3rd
Seat Baldy
joins us?

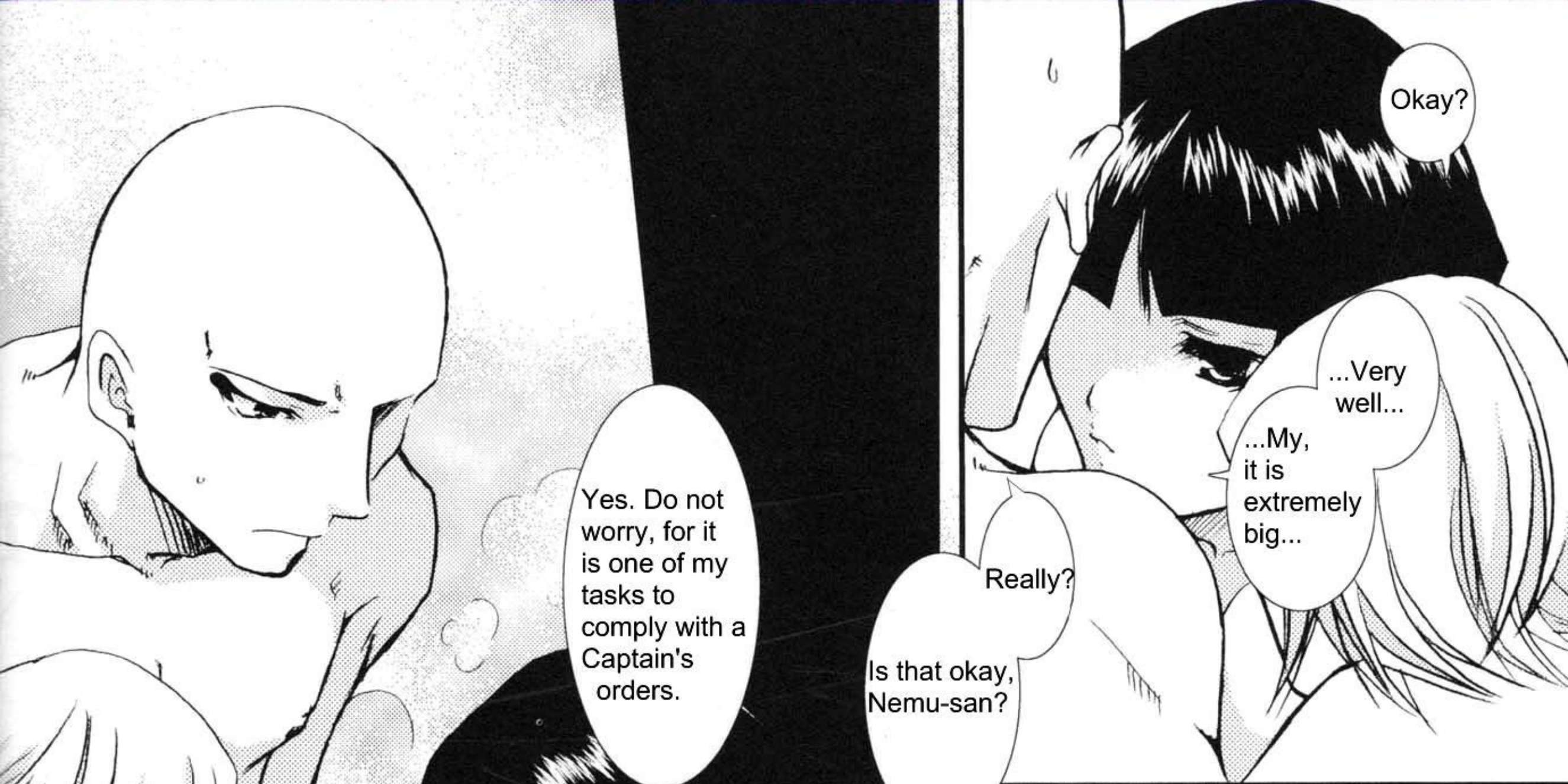


Nemu-
chan!



Ken-chan needed
someone to look
after me. I hope
it's okay if you join
me in playing with
Baldy's dick.





Yes. Do not worry, for it is one of my tasks to comply with a Captain's orders.

Okay?

...Very well...

...My, it is extremely big...

Really?

Is that okay, Nemu-san?



ジャリジャリ

ジャリ

ジャリ



How do you like it, Baldy-sama?

AHH...

HAH...

ジュンジュン

ジュンジュンジュン

HA...



Hey,
Nemu-chan?

It looks
good,
don't you
think,
Nemu-
chan?



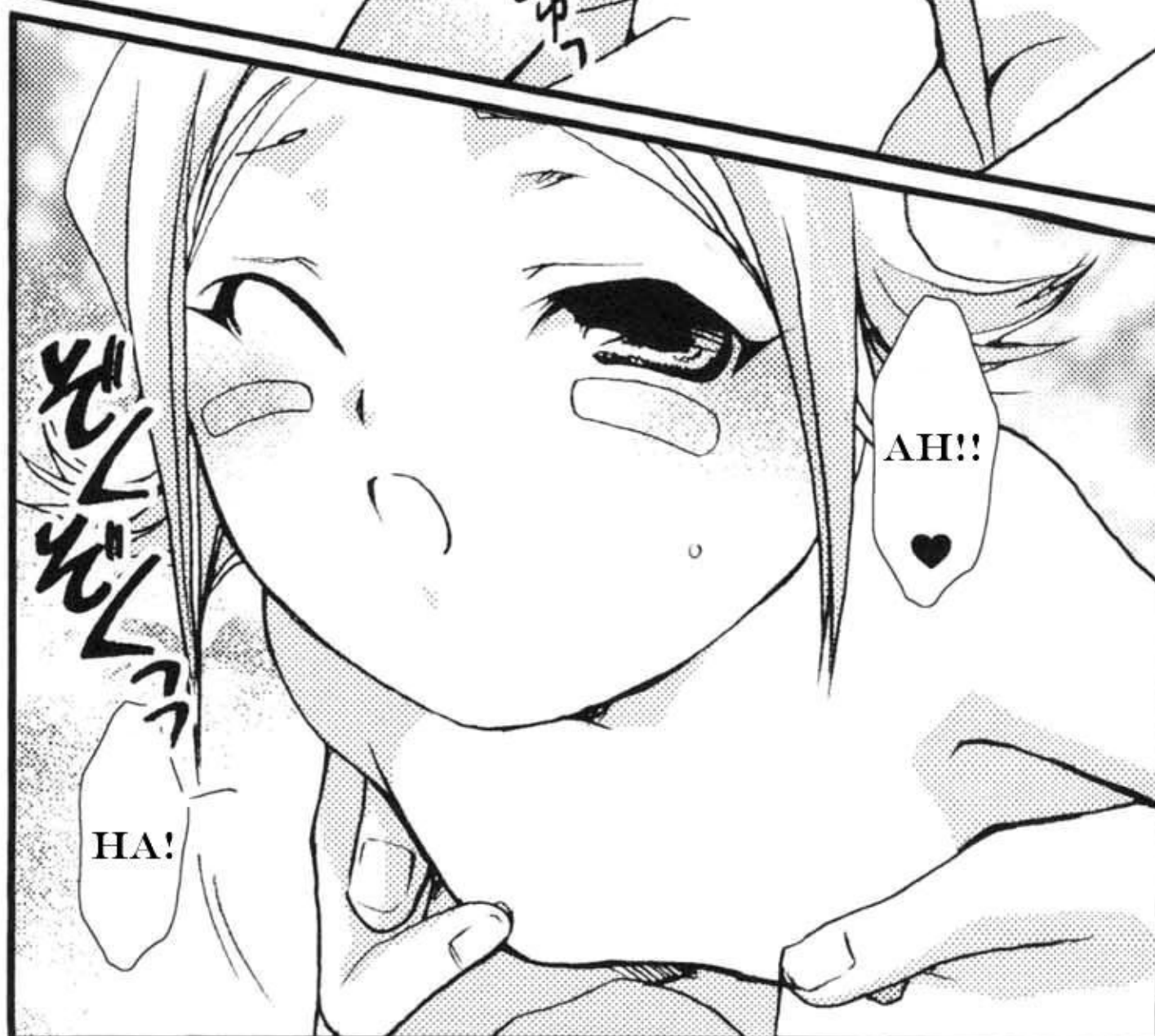
Hey!

From here
it looks like
I have a big
cock!

Eh...

If it's that,
then yes.

ちゅ

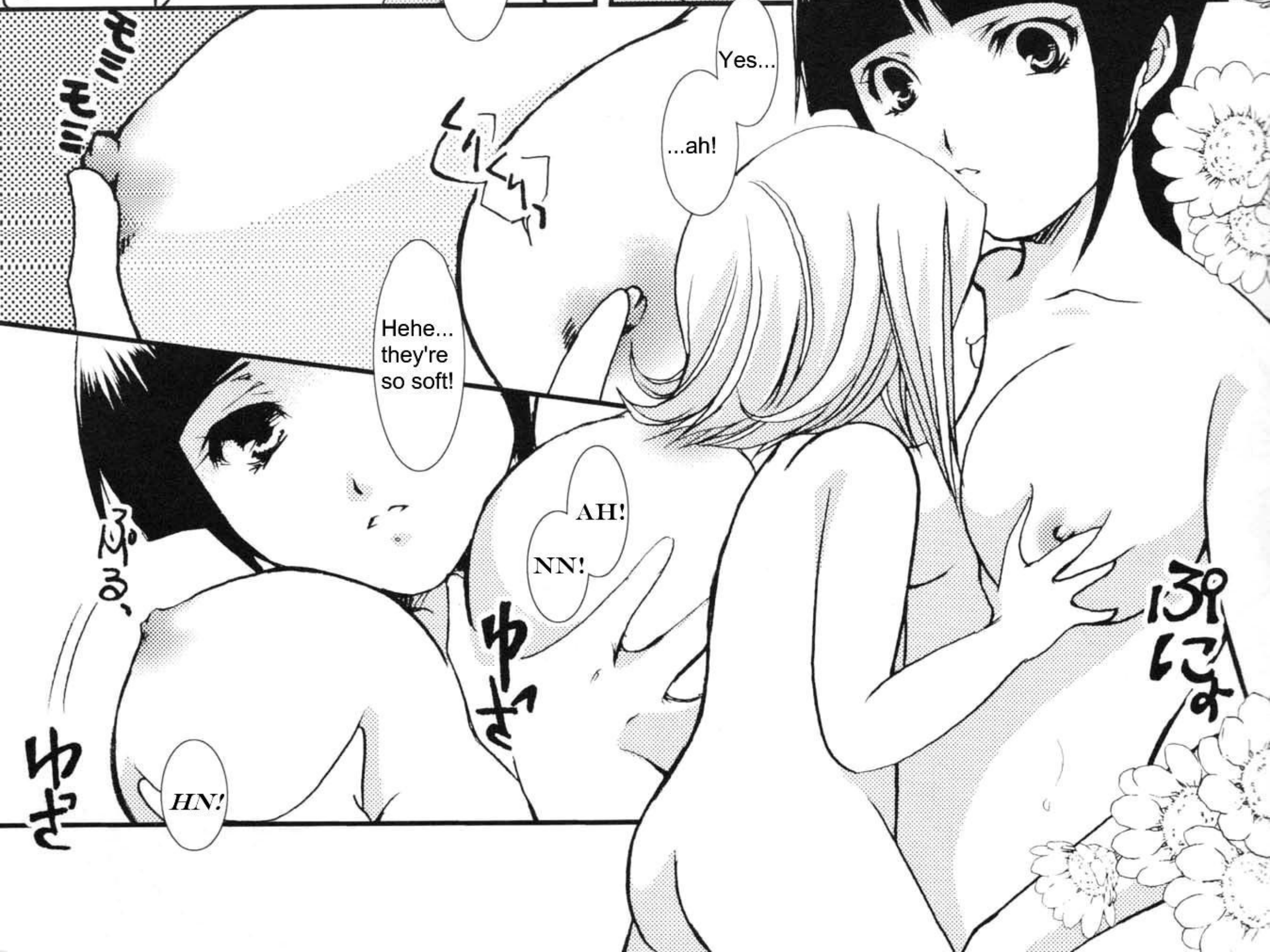




Unlike Nemu-san's, her breasts are as flat as a cutting board...

Nemu-chan!

You can stand up now.



Yes...

...ah!

Hehe... they're so soft!

AH!
NN!

HN!



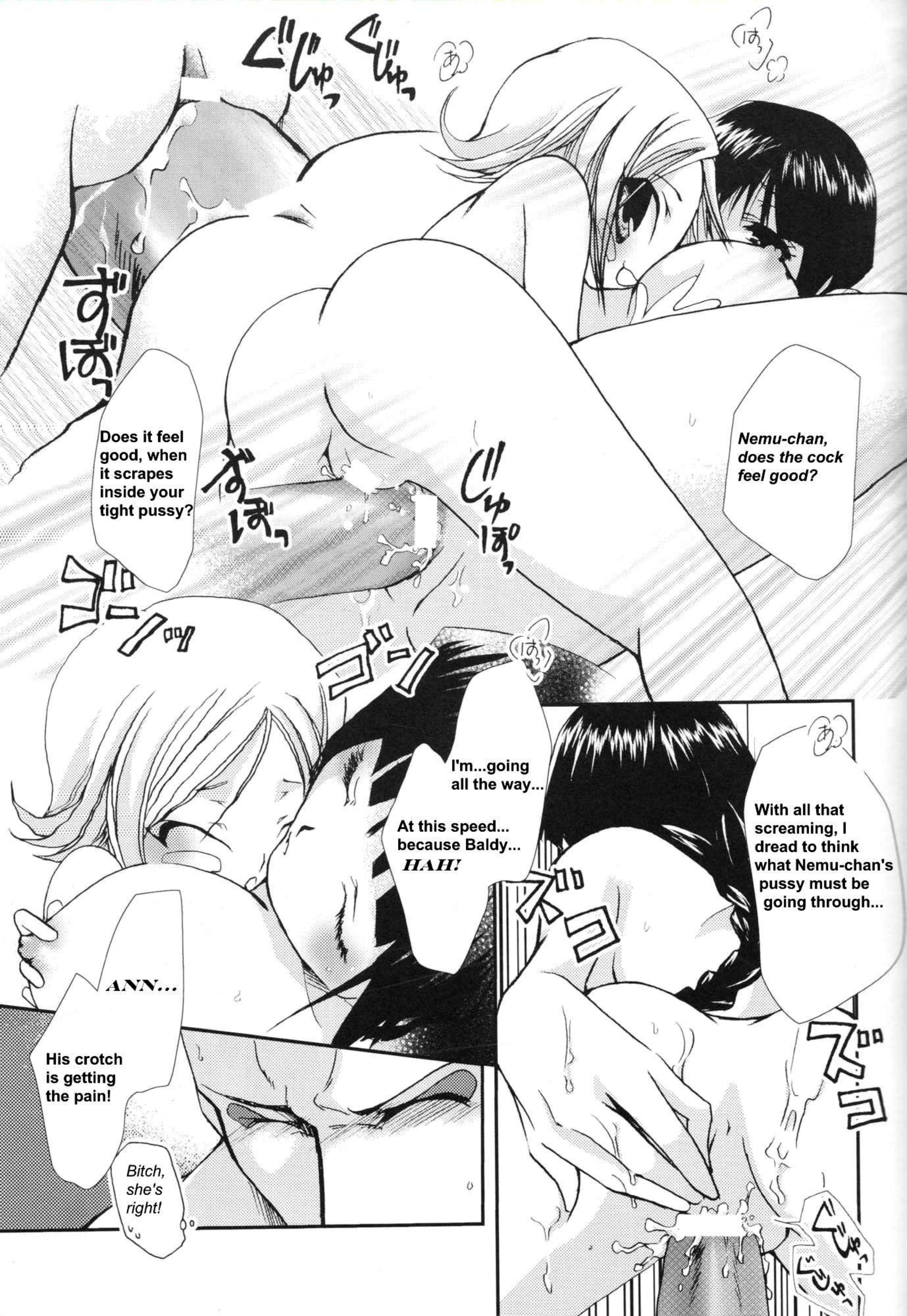
Come on, Nemu-chan!

Nemu-chan, can I stick it inside?

Hey? Is it in? Is it in?

ぬ は

Y
A
A
A
A
H
!!!



ぐわー

Does it feel good, when it scrapes inside your tight pussy?

ぐわー

ぐわー

Nemu-chan, does the cock feel good?

ゴーン

ゴーン

I'm...going all the way...

At this speed... because Baldy...
HAH!

With all that screaming, I dread to think what Nemu-chan's pussy must be going through...

ANN...

His crotch is getting the pain!

Bitch, she's right!

ゴーン

ぐわー

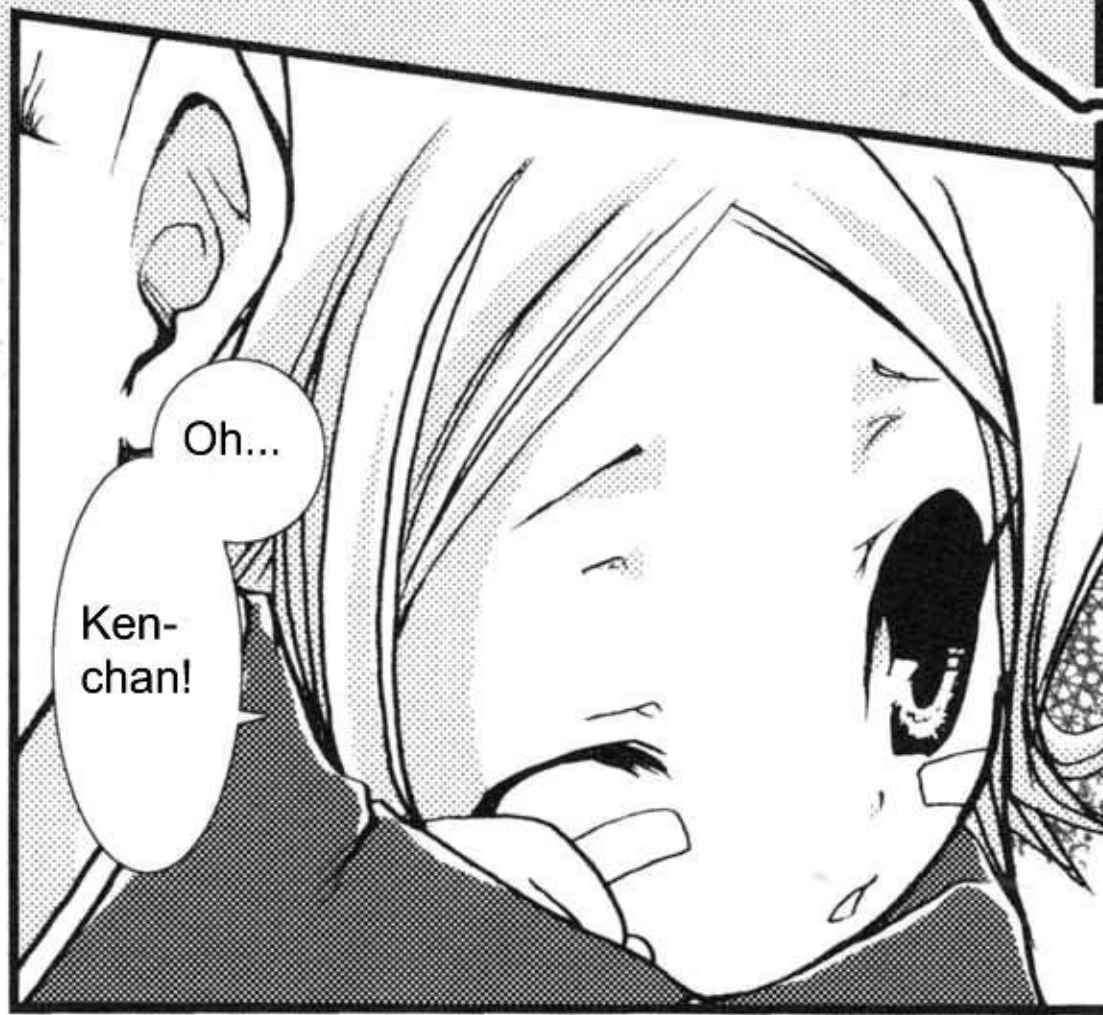


びしょ

F
U
U
A
A
A
A
H
H
!!!

びしょ

びしょ



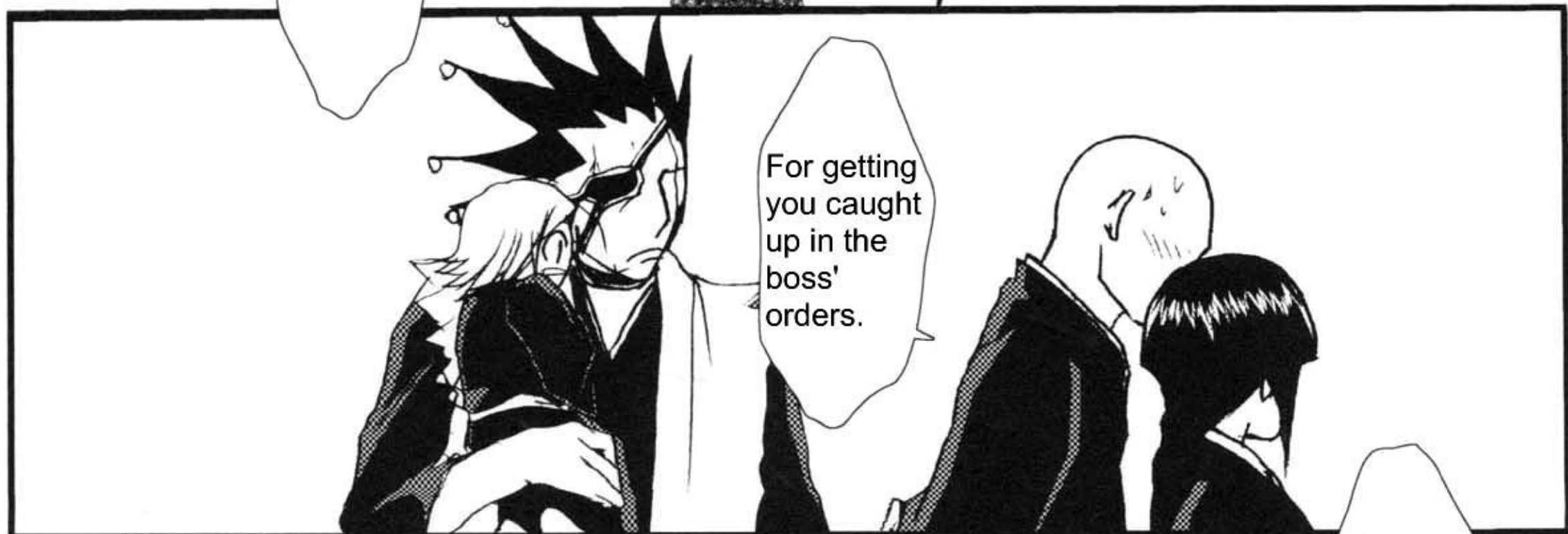
Oh...

Ken-
chan!

There
you are.

Oh...





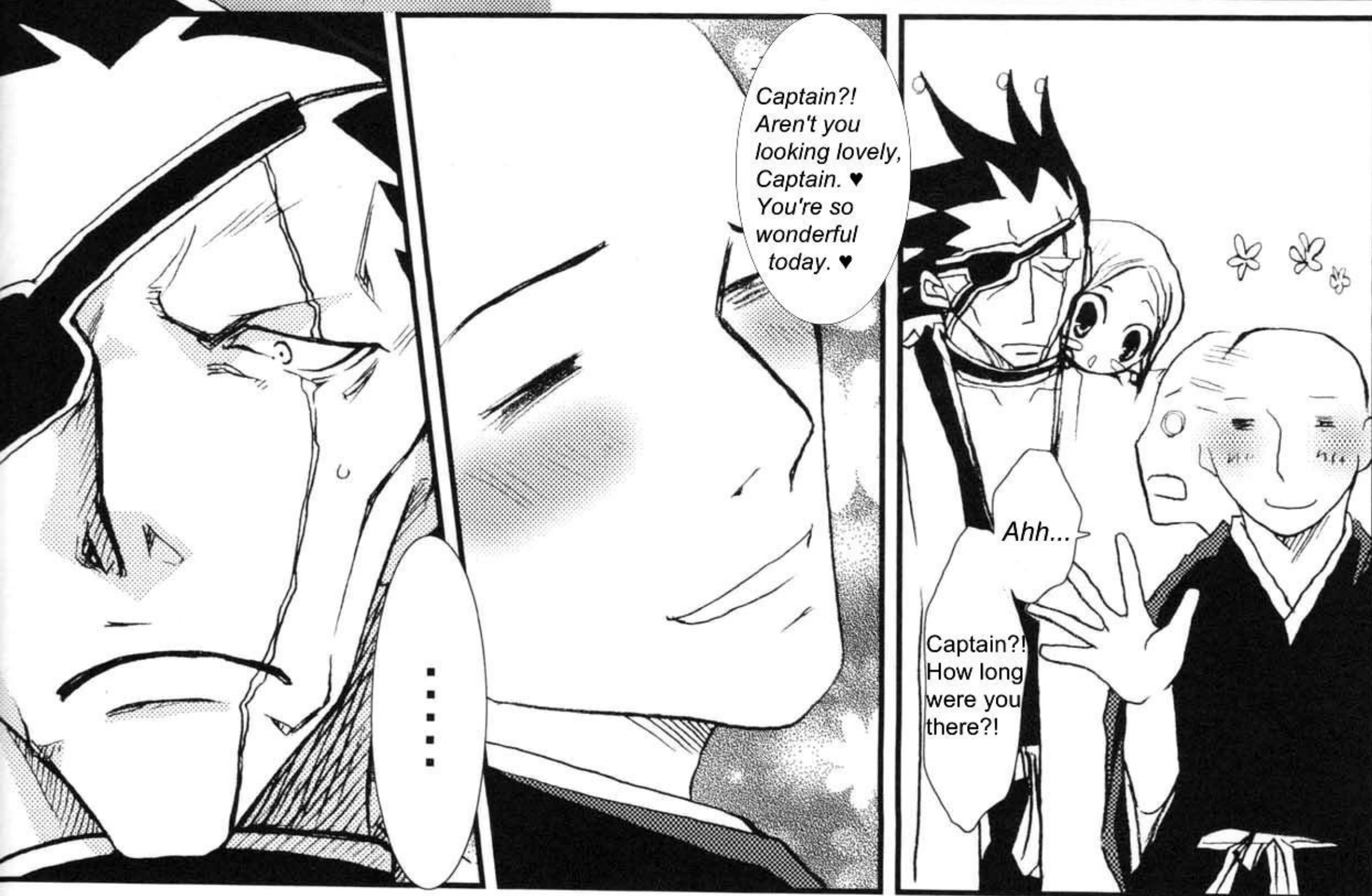


...Very well, Ikkaku-sama. Adieu...

Bye!

...Oh. Please don't call me Baldy again. Ikkaku will do just fine!

Excuse me, Baldy-sama, I take my leave...



Captain?! Aren't you looking lovely, Captain. ♥ You're so wonderful today. ♥

Ahh...

Captain?! How long were you there?!

You can read Baldy's face like a book!

EEH?!

Ikkaku... If being called Baldy by everyone pissed you off so much, why didn't you just say...?



男前日番谷くんに乱菊姐さんを縛って欲しい。
男女問わず、ちびっ子攻めに萌え萌えです。
やちるにも、ダークロウズのユリーシャみたいに「この豚！」
とか言わせたかったりしたのですが…ハハ…やちるに言われて
もなあ…。「ブータ！ブータ！」とかって軽く言われるだろうから、普通にムカつくな。そもそもそういうシーン無かったし。

ところで、女性の緊縛絵は初描きでした。男性のは昔…再不斬で…。思っ
たように描けないものだ…。

次のページからは今回のマンガの分岐没ネタ。ネタというほど
出来上がっておらず、こんなのもしてみたかったんだけど、上
手くまとまんなかったなあ。でも、せっかくなので…って感じ
です。もうしばらくお付き合いいただけると幸いです。

「やちる……か!!」

「あ、剣ちゃん!!」風呂場と脱衣所を隔てる扉が開かれると同時に発せられた声に、やちるは二角の腕からすり抜け、剣八の胸に飛び込んだ。

「た……隊長!!」

「二角……やちるが世話になったな」

「ハハ……」

「どうした……そんなに縮こまって? あ?」頭に血が上ったところに冷水をかけられ、萎縮する一角を、剣八は声にどすをきかせてからかう。

「剣ちゃん、やちるもうぐちよぐちだよ」

「剣八の腕の中でやちるがせむ」

「ん?」しよがねえな。じゃあ、ケツ出せや」

「うん」そう言うのと、自ら足を広げ、自分の一番敏感な部分を見せ付けるように腰を少し持ち上げた。確かに、濡れている。M字に開かれた足の中心部から、ポタポタと愛液が溢れ、濡れた床を更に濡らす。それを目で確認するとやちるの股間に怒張した男根が押し付けられた。ぬる……と亀裂に沿って男根が動かされる。

「あ……あ……あ……やあんっ!!」肉を割る様に、黒い男根が小さな膣口を押し広げようとすると、あまりにも小さい。

「おい、まだ全然ほぐれてねえしやねえか。狭くて先っぽも入らねえぜ」やちるの腰をつかみ、男根を抜こうとすると、その動きを阻止する様に腕に抱きついた。

「抜いちゃダメ……やちる、剣ちゃんのチンポ気持ちはいいのよ!!」

「しよがね……な。まあ、初めてでもないし、壊れはしねえか」

「うん」……あつ……あんっ!!」容赦無く体重をかけられ、下半身を蹂躪する圧迫感に、一瞬やちるの息はとまり、苦しげに呻き声をあげる。

しかし、二度、三度とすりあげるうちにその声はだんだんとあえぎ声へと変化していく。

「……ぬめった男根が小さな膣口を押し広げ、侵入していく。押し広げられた結合部目の前に、萎えたものが徐々に勢いを取り戻していく。

「……おい、やちる、二角のをしやぶれや」

「えっ!!」

「やちるはおしゃぶり大好きなものな。男のイチモツ啜めるだけで、アソコが濡れてイッチまいそっになるんだぜ。ほら、まだ頭の半分もいってねえぜ。はりきつてしやぶれよ」……



体が熱い……。ゆるゆると着物に袖を通す。
肌に触れる布と、その肌の上で折り重なった布が立てる音と振動を感じること、
私の体は熱を帯びていく。どうしようもなく、熱くなっていく。吐息が、漏れた。

「遅いヨ……」

隊長室の扉を開けると同時に浴びせられる罵声。もうすっかり
慣れていたはずなのに、ぼおっとしていたのだらう。「瞬、息をのんだ。」

「……申し訳ありません……技術開発局から資料を預かってまいりました」

「……」

差し出された紙の束を乱暴に奪い取ると、つまらなそうに表紙を眺めるが、
マリ様はすぐに顔を上げた。

「……ネム、お前風呂に入ってきたのか？」

「はい。埃っぽい書庫で作業しておりましたので、戻る前に入ってきたらど
うかと勧められましたもので……」

結った髪をつかまれ、私はマリ様の座る椅子へよろめいた。

「石鹸の匂いがするヨ」

私の髪に顔を寄せ、大きく息を吸う。マリ様のじくさに、

私の体はまだ熱をおひる。

「十二番隊の草鹿様にお借りしました」

「ホウ……」

いつも不機嫌なマリ様には珍しく、楽しそうに口角を上げながら、私の腕を掴んだ。
「では再び私が汚してやろうかネ」

体を起し、広い机の上に私の体を押し倒す。

「……」

「今日は機嫌がいい。バラバラにせず、このまま可愛がってやろうかネ」

「……あ……」

はだけた裾に手を伸ばし、太ももを撫でるように触る……触れるか触れないか……
小さく吐息がもれる。

「……では、仕度いたします……」

私は机の上に座ってゆっくりと足を動かした。膝を立て、自ら足を大きく広げるようにする。

私の秘所が再び椅子に腰掛けたマリ様の顔と同じ高さとなり、

マリ様の笑う吐息と熱い視線がそこをくすぐる。

私はマリ様の視線から逃れるように目を伏せ、しかし奥の奥まで良く見えるように、
ホルルの入り口は広げ、たっぷり潤滑剤を注ぎ込んだ。

…以上です

なんか優しいな
マユリ様だけど
結局は足もがれたりして
なんだかこっちの方が
ネムさんっぽいし
楽しそうだったかも…

でも十一番隊とのつながりとか
全然わからなくなってしまうので
やめました

そもそもどうして
やちるとネムさんの
組み合わせで
描こうと思ったのか…
一角×ネムをしたかったって
言うのもあったけど
手が触れ合ってキヤ☆
とかいうのならともかく
エロでやろうなんて
無謀だったよなあ…

ぬるー

すうー

「ヒュアラブ3」を見て
坊さん萌えて楽しみながらも
ものすごく後ろめたいです
陽春さんごめんなさい
あと、つるりんとあだ名が
似てるというだけで
ダイエーのむねりん
なんだか萌えてしまっ
てごめんなさい
なにより
久保先生にごめんなさい

京楽隊長！
仕事の邪魔
しないでください！

もう本編終わっただろ？

作者の言い訳を
読むなんて
つまらない仕事やめて
僕に付き合いなさい

あっ！
どしやっ



全体的に
アホなお話だったけど
七緒ちゃんのかわいい口から
こぼれる隠語
たまらないね

濡れてるよ

…うそんなこと！



ほら僕の指が
どんどん入っていくよ

こんなにトロトロなのは
僕のせいかな？
それともいやらしい原稿
読んだせい？
仕事でこんなにするなんて
悪い子だ

！京…っ！



でも
いやらしい女の子は
大好きだよ

っん……っ！

……
私はいやらしくなんか
ありません！

それに……！

ひく

ひく

もうおしまいだよ
最後までお疲れ様

萌えにまかせて突走り、自分でもワハワラン！な
この本であか、ここまで言売んでいたけ
ありがとうございました！

山吹ムツヲ。



Oct.2003

CHAGASHISAIBAN/YAMABUKI MUKKU

■ mail ■ chagashi33@hotmail.com

■ web ■ <http://bbb03.at.infoseek.co.jp/>

BLEACH FANBOOK For Adult